

文教福祉常任委員会記録

令和2年2月7日(金)午前10時00分～午前10時40分(9階909会議室)

○出席委員(9名)

委員長	萩原 太郎
副委員長	沢井 和宏
委員	山田 裕
委員	斎藤 正臣
委員	佐原 真紀
委員	二階堂利枝
委員	小野 京子
委員	粕谷 悦功
委員	半沢 正典

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査 「健都ふくしま」実現に向けた健康づくりの取り組みに関する調査

- (1) 行政視察の意見開陳
- (2) その他

午前10時00分 開 議

(萩原太郎委員長) ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

本日の議題は、お手元に配付の次第のとおりです。

初めに、行政視察の意見開陳についてを議題といたします。

2月3日から2月5日までの3日間にわたり長野県松本市、山梨県甲府市、静岡県藤枝市へ行ってまいりました行政視察につきまして、委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。順にご意見を伺いたいと思いますが、委員の発言に対して関連しての発言も随時お話ししていただいても結構だというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

(斎藤正臣委員) 3市に共通して言えることだと思っておりますけれども、やはり一朝一夕で成し遂げた

成果ではない。特に最後の藤枝市ですか、あそこにおいてはもう半世紀前からその取組というものを始めている、それが実を結んだ結果というのが強く印象を受けました。50年前ですから、本当に高度経済成長の真ただ中に市民の健康というものを指針に掲げて取り組まれたというのは本当にすごいなと思いますし、福島市においてもこれからしっかり取り組むにあたっては、成果というのは我々の次の世代に成果として実績が上がるのではないかなというふうに思っていますし、長期的な目線で取り組む必要があるというのがまず1つ、大きく3市共通して感じたところです。

もう一つ、特徴としてすごく感じたのは、市民の方が社会活動に携わる窓口が、チャンネルがあるというところを、私はそれを共通点なのかなと思います。それは、公民館であったり、ボランティア活動であったり、それはいろいろ3市によって特徴は様々だったのですが、市民が社会と携わるきっかけがあって、その中にいろんな活動をする中、健康というキーワードで、そこに健康に対して目を向けるきっかけづくりができています。結果、保健師さんであったりとか、あとは保健委員であったりとか、それは地域によっていろいろなのですが、そういった人たちの助言や指導などによって、健診率がアップしたりとか、食生活の改善をアドバイスしてもらったりとか、そういったことにつながっていて、結果、健康寿命延伸につながっているというようなことが特徴なのかなと思いました。

ですから、本市においては、やはり短期的なスパンで、例えばウォーキングコースなんかをつくっても非常に効果的ではあると思うのです。ただ、長期的な目線で見るときに、市民の方が社会活動に参加してもらえるような、そういった仕組みづくりというのも見据えてやっていかなければいけないのかなというふうに感じたところです。先ほども申し上げましたけれども、短期的にやらなければいけないところ、できるところというのももちろんあると思います。これも3市で共通していたのは、やっぱりウォーキングコースが整備されているというところだったと思います。福島市においても、サイクリングロードを含め、本当に歩いてすがすがしく感じる場所というのはいくらあると思うのです、本当に。ですから、そういったところの整備なんかというのは、所管がちょっとまたがってしまうかもしれませんが、健康寿命延伸のためには必要不可欠、その運動の部分というのは必要不可欠なところであると思います。

余談ではあるのですが、3市は全てサッカーチームが強いという特徴があったと思うのです。だから、市民が一体となって何かを応援したり、何かに取り組んだりという、その市民性というか、素養みたいなのが、地域性というか、そういったものが根づいているというのは福島と少しちょっと違うところであり、羨ましいところでもあるのかなと思いました。サッカーの応援しなければいけないというわけではないのですが、これから何十年後、先を見据えるときに、その何かに市民が一つとなって向かっていくような、これは健康と直接関係ないことでも全然いいと思うのですが、何かそういったものを見据えて取り組めるものがあれば、そこに健康というキーワードを落とし込んで、効果が上がるのではないかなというふうに、3市の話聞いていて、思ったところです。こ

れは余談ですけれども。

以上です。

(萩原太郎委員長) 何かそのサッカーとの関係性も、もしかするとあるのかもしれない……

(斎藤正臣委員) 私はちょっと感じました。

(粕谷悦功委員) 3市を全て視察させて、感じたことは、まず健康な市民生活を送るため、あるいは市民生活の健康を維持するために大切な内容は、まず運動、それと食べ物、それと教育、これが非常に重要だということを、3市を視察させていただいて、分かりました。

その中で、スポーツでいえば、単に運動を、ももりん体操もやっているけれども、スポーツをするというだけではなくて、スポーツをするための素地をしっかりとやっぱりつくってやるということが1つです。そして、市民がいつでも健康な体をつくるための環境ができると。いつでも、どこでも、身軽に、ウォーキングでも、あるいはちょっとした公園なんかでも運動なんかができるという、そういう環境をやっぱりつくっていく必要があると。

あと、教育、これについては、もちろん成人の教育もありますけれども、やっぱり子供のときからしっかりと福島県の課題、心筋梗塞あるいは脳卒中、こういう課題に対する教育を、それをどのようにしてそういう問題が発生しているのか、それを防ぐためにはどう食生活、運動も含めてですけれども、そういうものをしっかりと取り組む必要があるのかということをお子孫のときから教育をするということが重要だなと。

それと、あとは食生活ですね。食生活として塩分が多いのはやはり問題ですよということで、塩分を減塩の食生活を、これも一つの教育だけれども、これは教育以外に地域とか、市民全体にそういう警告ではないけれども、健康を維持するための一つの食べ物をしっかりと市民に知っていただくということだと思います。

それと、この3つですけれども、これらの取組をするにあたって、やっぱり行政と、特に保健師さんと地域が一体となって取組を進める必要があるのではないかと。地域にだけ投げておいて、地域だけにさせるということではなくて、行政もしっかりと、保健師も地区単位でもってしっかりと入って、そして地域と一体となって意識改革を図って、取組を進めていくと。その一つの大きなものとしては、健康を推進するための、どこだったかな、推進委員というのかな、こういうものを地域のリーダーを養成して、そして地域別にそういう取組を進めるということ、こういうことが、こういう仕掛けをしっかりとして、そして地域が取り組めるような環境をつくってやる必要があるのではないかなと。

それと、市民の健康に対する意識向上を図る取組が必要だと。これは、どういうふうにすべきかということの内容は、地域単位の健康を阻害する課題をしっかりと調査して、そしてその健康を阻害する食べ物であるかもしれない、スポーツであるかもしれない、あるいは血压、コレステロールかもしれない。こういうものをしっかりと課題を把握して、その課題に対して、地域ごとにその課題を解決するような、食生活であったり、運動であったり、教育であったり、こういうことを進めるというこ

とが重要、必要なのではないかなということですかね。

大きく言うと、スポーツと教育と食べ物と、あとは地域と行政とのしっかりと密着した取組、それと地域を、市民に意識をしていただくための、健康推進員なんていうことを取り組んでいたけれども、福島市はどういうメンバー、名前にするかどうかとしましても、こういう方をしっかりと地域に、もりん体操の伝道師なんていうのもそれはいいけれども、それよりもやっぱりこういうリーダーを地域にしっかりと養成して、そしてそういう方たちがいろいろ改善をして、健康づくりに取り組むという、こういう素地をする必要があるのではないかなというふうに思いました。

(佐原真紀委員) 3市を見せていただくことで、お話を聞かせていただくことで、福島にない取組がたくさんあって、とても参考になりました。その中でも無関心層への働きかけをどうしていくかというところがすごくポイントだなと思っていて、行政の一方的な発信ではやはり足りなくて、社会、企業ですとか地域との連携が必要になってくるのですけれども、その中でも市民の皆様が、例えばこの間笹谷地区の会に行ったときにも、吾妻地区ではこういう健康の取組を地域でやっているらしいねと、それも行政がサポートしてやっているらしいね、何でうちはないのだろうかというようなご意見もあったので、市民としてもそういった健康への取組を行政と連携してやっていきたいという希望はあるのだなというふうに感じたので、市民が常に健康を意識して生活するためのサポートを行政が何ができるかというところを考えていきたいなと思いました。

そして、健康だけではなく、精神的、社会的な健康がないと、どうしても自分の体の健康のことを気にすることができないので、松本市、藤枝市とかでもあったように、身体的、精神的、社会的、全てにおいての健康というのを目指していかなければいけないなと感じました。

以上です。

(山田 裕委員) 今回3市を訪問して、それぞれからレクチャーといいますか、報告を受けたのですが、やはり職員の皆さんの頑張りが市民の皆さんの心を動かして、健康問題についてそれぞれ積極的に関わっていくという、そういう姿勢があるなというふうに思いました。

松本市ですけれども、松本市は、1つは市長のイニシアチブが決定的な役割を發揮しているのではないかなというふうに思ったのです。市長は外科のドクターだと、甲状腺が専門家で、原発問題で全国で講演しているというような報告がありましたけれども、やはり健康問題に対して市長が旗を振って、市民の健康、命を守るのだという立場が職員の皆さんの中に浸透しているのを感じたところです。特に松本市では、やはり重層的なシステムをつくっていますよね。体制も確立しているので、先ほどちょっと出ましたが、健康づくり推進員が851人、食生活改善推進員が334人、体力づくりサポーターが483人ということで、しっかりしたそういう体制をつくって、市民へ働きかけているという、これはやはりすばらしいそういう取組だなというふうに思いました。

あと、甲府市ですけれども、無尽という言葉が出てきたのですよね。無尽というのは甲府市が発祥の地だそうですけれども、そういう市民性というか、県民性があつたとはいえ、グループをつくって、

その中でいろいろ一緒になって考えて、行動して、具体化するというのがこの健康問題でも先進をつくっているのだという中身だというふうに感じたのですけれども、ちょっと質問でも言いましたけれども、市内5ブロックに分けてデータを分析して、それぞれの手だてをどうするのかという、そういう具体的な議論を行って、推進しているというのも大変教訓的な中身だなというふうには思いました。

それから、藤枝市ですけれども、やはりここはもう圧巻ですよ。職員の皆さんのアイデアを持ち寄って、それでそれを市民に提供してやるということで、毎年毎年アイデアを出して、それをプレゼンして、決定して、次年度それを具体化するということを繰り返し、繰り返し行っていく中で、様々な豊かなそういう中身がつくられているというふうに思いました。ここで重要なキーワードだというふうに思ったのは、楽しくお得になる、そういう取組が健康につながっていくポイントなのだという、こういう観点だというふうに思うのです。健康問題で関心があってもなかなか腰が重いという人に対して、きちんとかういう立場で推進するということを工夫してやっている、こういう姿勢も大変重要だなというふうに思いました。

3市で共通している点ですけれども、先ほど話が出ましたけれども、1つはウォーキングマップです。これを作って、気軽に市民の皆さんがどこをどういうふうに歩けば楽しく運動できるのかということ具体的に提示しているということと、あと職場に出かけているのです。地域の方は、いろいろそういった集まりや何か持ちやすいということはあるかもしれませんが、現役で働いている人たちの健康問題をきちんと位置づけて、そこに市の方が出かけて行って、健康問題で指導するというのをそれぞれ3市で行っているという報告がありました。あの手この手という形で、それぞれの市の皆さんが努力しているという点を私自身これから進めていく上で大変参考になったなというふうに思ったところです。

(半沢正典委員) まず、テーマが健康というのは、特徴的なのが、ほかの施策と違って、まさに全市民を対象にする施策というのが特徴的な施策だと思っていました。その中で、全市民を対象とした健康長寿、健康寿命の延伸という取組の施策をどういうふうに全市民に行き渡らせるかというふうに考えた場合に、やはり地域コミュニティーをうまく使う以外になかなか方法ないなと。そういう意味では、受皿であるところの地域のコミュニティーがしっかりとできているということがまずは3市共通のところであって、その中に健康というワードを、テーマを特化して入れると。その役割を果たすのが松本市でいえば健康づくり推進員とか、藤枝市でいえば保健委員という形になって、地域のコミュニティーがしっかりした中に、健康ということをしっかりできる役割を担う人間を置くと、そこでまず地域に広げて、健康というのを広げていくと。その中で、あらゆる地域のイベントとか、あとはコンビニを利用するとか、地域の財産をうまく、お金のかからないような形で使いながら、継続的にやっていると、おのずと健康に対する意識が高まっていくというようなことが共通しているのかなと思いました。

そして、先ほど粕谷委員からもあったように、子供の頃から学校教育なんかにも健康、生活習慣病とか、様々な食に関する事とか、様々なところを教育にも取り込みながら、小さいときから健康に関心を持つということもしっかりと確保しているのだなど。

行政側としては、やはり健康部門に関する部署だけではなくて、しっかりと組織に横串を入れながら、あらゆる健康に対する、担当でなくても、切り口を加えながら、工夫を加えるということが、オール福島市の行政でやるということが大切だというふうに感じました。

福島市におきましても、これからいろいろ委員長報告なんかまとめると思うのですけれども、自治振とか、町内会というしっかりした組織があるので、その中にこれからは、今やっているような地域別健康づくり協議会のようなことをしっかりと根づかせた中で、ウォーキングマップの作成とか、地域のイベントにもっともっと健康に関するブースとかを設けるなりしながらやっていくと、福島市の場合には十分可能ではないかなというふうに感じました。

以上です。

(二階堂利枝委員) もうほとんど出てしまったのですけれども、松本市は本当にお医者さんが市長だということで、何かやっぱり全然別格な感じに取組が違うなと思ったのですけれども、1つちょっと自分でとても、あっ、すごいなと思ったのが、まちの中の喫煙所が禁煙啓発所になっていて、そして喫煙所に入るとモニターがあって、あなたの肺はこんなに真っ黒ですよみたいな、何かたばこを吸っている人が悪いような気持ちになるブースなのです。なので、そういう、駄目だよ、駄目だよというのではなくて、やっぱりそういうところも利用して健康にしていくという、本当にたばこを吸う人というのは健康に無関心の方、理由、一番はそうだと思うので、そういう人にも、何かちょっと遊び心みたいな、松本市の玄関のところにもパンダのでかい置物あったり、何か市民がそういう役所、こういう建物に来てもし圧迫感がない、本当に開かれた感じなので、職員の方の話も、そうすると聞こうかなという感じに、全体の取組というか、雰囲気がとてもよかったですと思います。

正直甲府ってあまり覚えていなくて、松本市の保健師さんのお話で、本当に人にやる気にさせるといって、推進員にしても、誰かを推進員とかにすると、あっ、やらなければと、こう。市からとか、県からとか、あなた推進員だよと言われると、自分でやる気になって、そしてこういう職員の方とかに褒められると、すごい、一般の人たちってめちゃめちゃ喜ぶので、そういうおだてながらいっぱいリーダーをつくっていくという取組がすごく上手だなと思いました。

藤枝市も、山田委員からも出たように、本当に職員のアイデアがすごくよくて、それもとても楽しそうにやっているし、マイレージのポイントにしても、普通パンフレットで1つあったら、そこは同じ課がつくっているみたいになっているのですけれども、交通とか健康とか環境とか、そういうもの全てにマイレージみたいなのがあって、みんなほとんどマイレージをためるというのは同じなのですけれども、でもいろんな課がそうやってちょっとずつ遊び心を入れるみたいな、そうするとその職員の雰囲気に市の人も一緒に楽しくしてもらって、一緒にやっついこうかなと、あまりお祭りみたいに

わあっとやらなくても、地味に浸透していくのかなというふうには思いました。あと、企業との連携が、がっつりではなくても、ちょっとでも企業との連携があって、企業もあまり構えなくても、一緒にやっっていこうという感じの連携なので、ああいう連携、少しでも連携を取っていくという形はいいかなと思いました。

以上です。

(小野京子委員) 大変お世話になりました。

私も3市回らせていただいて、やっぱりテーマを、松本市は健康長寿延伸の都市、甲府市は健康都市宣言やられて、また藤枝市は健康・予防日本一ということで、その市で掲げて、それで行政と地域と事業者、それが一体になってやっているのがそれぞれの今回受けた実績であり、いろんなお話が聞かれたのかなと、こう思います。

松本市では一番、福祉ひろばということがあったのですけれども、地域の縁側ということで、本当に、福祉ひろばということで地域に入って行って、その地域の方々が健康にするには何をしたらいいかということを考えて、補助金を30万円頂いて、みんなで考えてやるという、地域が運営をして、行政がサポートする、そういうことでやっぱり健康に対する具体的な政策が地域でもできて、健康につながっていったのだなということ松本市では感じました。あと、子供の教育ということも出ましたけれども、こどもの生活習慣改善事業ということで、きちんと子供の生活習慣をまず小さいときから改善していくということで具体的にやられて、お医者さんということもあったと思うのですが、中学生も血液検査をして、早く生活習慣病、そういうのを見つけて、具体的にやっているということもすごくよかったと思います。

あと、甲府市のほうでは、子供健康づくりということで、子供にきちんと教育をして、遊びがなかなか今できないということで、遊び方まで教えてあげて、小さいうちから健康ということを具体的に進めているのはすごくよかったなと思います。あと、地域担当保健師ということで、その方は出張保健室ということでありまして、あるところにみんなが集まるのではなくて、データを基にして、地域を回って、その地域はこういう現状だということ、やっぱり自ら出張して保健室を開いて、皆さんに訴えていくという、動いて歩くという、そういう出張保健室のような事業もいいものだなと、こう思いました。

藤枝市のほうでは、守る健康、創る健康ということで、本当に予防に力を入れているということで、守る健康はいろんな政策で、歩くものとか、いろんなものがあったのですけれども、そういう具体的なものがあると、市民の方もそれを挑戦して、やっていく中で健康を推進できるということを感じました。あと、もう一つは子供の健康教育ということで、松本市でもありましたけれども、やっぱり小さい頃からの教育が健康にとっては大事だということで藤枝市でも感じました。あと、若者に対する啓発ということで、福島市もいろんな若い方にはがきを出したりはしているのですけれども、若者に健診をやるとか、健康状況とか、そういうものを具体的に個々に送っているということは、若いうち

に健康に対するそういう教育というか、そういう啓発も大事だということが分かりました。あとは、皆様言われていたように、やっぱり地域ごとに女性保健委員とか保健師とか、そういう担当の方を、人を地域に入れることによって、皆様がいろんなことに健康に関することを学び、できるということなので、そういう人材、人を地域に置いていく、育てていくということも大事だということをお3市の共通点として感じました。

以上です。

(萩原太郎委員長) それでは、沢井委員からは、個人の意見、そして併せて、ずっとメモしていただいたので、それも併せても結構ですので、お願いします。

(沢井和宏委員) 今大体いろいろ尽くされたかなんと思うのですけれども、今あまり触れられなかったのはデータの部分、往々にして県単位でのデータはあるけれども、我が市の特徴はどうかという、そういうデータがやはりまずはないかな。やはりやっているところは、長い間かけて地道に活動してきた生のデータを本当に大事に積み上げて、自分のまち、そして地域ごとのテーマを見つけていく、課題を見つけていくという努力をなさっていると、それは一朝一夕にはできないところなのでしょうけれども、やはりそういうのが地道に必要なかなんて思っております。

あと、今いろいろお話出た中で、やはり組織の在り方ですね。横断的に横のつながりで、いろんな部署で健康について取り組んでいたというのが3市共通のところかなんて思っております。

あと、それに絡めて、施策もいろんなところから施策が出てくる、健康をキーワードとした施策がいろんなところから出てくるというのがやはりすばらしいのかなと思います。

あとは、何といってもやはり人材の育成なのだと思います。それも上から目線ではなくて、行政が押しつけるのではなくて、地域と共につくっていく。そういう中からウォーキングマップとかも地域と共に作っていく。完全に任せるのではなしに、あるいは行政が作ったのを押しつけるのではなしに、共に、どうしたらいいでしょうねと地域と共に作っていったマップが、それぞれ形式が違ったりしているのですけれども、それはそれで、地域の人たちが自分たちが作ったという、そういう意識を育てる中で主体性を育てていくのかなんと思っております。

あとは、最後には民間、民間を巻き込んでということで、先ほどもありましたけれども、少しずつでも民間、それも大規模のところも大事でしょうけれども、50人以下の小規模の事業所に対しても少しずつ働きかけていく。福島市でもこれから取り組もうとしているところなのだと思うのですけれども、そこら辺からやはり働き盛りの、働く年齢層に対しての働きかけというのが必要かなと思っております。

大体以上です。

(萩原太郎委員長) 皆さんからそれぞれ本当にポイントとなる発言を頂きました。やっぱり健康の都市については共通しているところが多いというふうな部分を皆さんお話しいただいていましたし、そう感じてまいりました。

福島市においても個人の健康、地域の健康、福島の場合は職場の健康みたいな形で始めようとしておりますが、この3市のほうでは、言い方はちょっと違いますけれども、個人の健康、地域の健康、まちの健康とか、そんなふうな部分での取組をしているところもありますが、基本的には同じような取組かなというふうなことだというふうに思っております。

ただ、3市とも、斎藤委員もお話ししましたように、歴史が長いというようなことがありますので、そういうような地道なコミュニケーションの上に健康が成り立っているのだなというふうな印象も感じてきたところではあります。

ただ、それに輪をかけたような取組としては、楽しんでやるというのがまたこれも一つのキーポイントになるのだというふうに思っております。ポイントを集める、それがまた景品になる、そしてその景品もまた市役所からの財政的な負担でなくて、民間からの協力も得ると、そういうものが広がっていくのだなというふうな思いで、そのような話も皆さんから出たというふうなところで、本当にいい視察だったなというふうに感じております。

そのほかでまた、もう少し言い足りないとか、それから付け加えたいという方はございますか。

(粕谷悦功委員) 健康に対するキーワードというのは、私も3つ回って、大体似ていると。もちろん福島市も健都ふくしま創造事業のキーワードって似ているのだ。私は、そういうキーワードの中で何を個別的に、実践的な活動を取り組むかということの内容なのね。これは、委員会としては、その何を具体的に取組を進めるべきだということ、これは行政のほうに提案しなくてはいけないと。だから、その内容をしっかりと、今回視察した、例えばポイント制を導入しろというのか、健康推進員をつくって、地域でそういう取組を進めるべきだということなのか、あるいは無関心層に対する、そういう人たちに關心を持っていただくための事業を取り組むべきだとか、そういうことをぜひ具体的にに入れて、行政に提案をしないとイケないと思う。何せ相手は50年の歴史の中でやっと、50年間たってやっと企業との取組を進めようとか、こういう形になってきているから、その間にいっぱいあると思うのだわ、やってきていることが。だから、それを福島市にはどういうことを、50年かかったら、また50年かけて福島はやるわけにいかないのだから、これはやっぱりスピードを持って取り組む施策というのはこういうものを取り組むべきだということを文教としてはやっぱりしっかりと提案する必要があると思うのだ、これを。

(萩原太郎委員長) そのとおりだと思います。一つの例としてウォーキングというふうな部分もございました。ウォーキングということでは、各地域にウォーキングコースがあるとかという地域もありましたので、そういうものを提案していくとか、様々な提案があるかというふうに思いますが、今日のところは皆さんのところの意見を頂いた部分をあらあらにまとめさせていただいて、これからその中の部分について、今粕谷委員がお話ししたように、様々な部分で、これを絞っていくとかというふうな話合いをこれから持ちたいというふうに考えております。今日は皆さんの意見を正副委員長の手元で内容をちょっと整理させていただいた中から、もう少し深掘りしていきたいというふうに思っ

おりますが、いかがでしょうか。

(粕谷悦功委員) あと、これいろんな取組をすると金かかってくるのだ、いろいろ。だから、やっぱり福島市は国とか県とかの助成事業をしっかりと調査して、そういうことを利用して、より負担のかからない方法で進めていくということが必要だと思うのだ。意外と福島市って、国とか県のいろんな助成事業あるのだけれども、往々にしてそういうものが生かされていないのだ。分からないのか、調べないのか。だから、これについて、松本市のように、やっぱりしっかりと、よりお金をかけなくても進められるような、そういうものをしっかりと取り組む必要あるのだな。そう思うね。

(萩原太郎委員長) 皆様から、関連してでも結構ですし、別の観点からでも結構ですが、ご意見ございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) それでは、先ほども言いましたように、この内容を一旦まとめさせていただきな
がら、次回以降のまた話合いというふうなことでさせていただきたいというふうに思います。

以上で行政視察の意見開陳についてを終了いたします。

次に、その他といたしまして、委員の皆様から何かございますか。

【「これ、いつまでにまとめるんだっけ」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) これは、9月の議会に報告というふうなことであります。ですから、前にお渡し
しておりましたスケジュール的にいいますと、4月、5月と7月、8月下旬と、それから大ざっぱに
5回ぐらいの検討でやりたいというふうに思っております。

それでは、以上で文教福祉常任委員会を終了いたします。

午前10時40分 散 会

文教福祉常任委員長 萩原 太 郎